

お知らせ

第8回「懸賞論文」 入選者決定！

家の光文化賞農協懇話会では、J A全国大会開催の年度（3年に一度）に、懇話会活動の一環として、教育文化活動をテーマに組み入れた内容で、J A役職員を対象とした懸賞論文を募集しています。

第8回「懸賞論文」については、全国から11編の応募があり、厳正な審査の結果、下記の方が選出されました。

主催 家の光文化賞農協懇話会 後援 一般社団法人 家の光協会

1. テーマ

組合員との接点を強化する教育文化活動

～食と農を基軸として、人づくり、仲間づくり、地域づくり～

2. 審査会について

①期日：令和7年5月29日

②会場：家の光会館

③審査委員：明治大学教授 大高 研道

東京農業大学教授 高梨子 文恵

家の光協会代表理事専務 木下 春雄

3. 入選者

最優秀賞 賞状と賞金 20 万円：該当作品なし

優秀賞 賞状と賞金 10 万円

●神奈川県 J A セレサ川崎 田中 純也氏

J A という実験室

～新たな「集い」のカタチ

●長野県 J A 松本ハイランド 田中 均氏

J A の活力の源は「組合員の協同活動」

●静岡県 J A 静岡市 藤浪 一郎氏

組合員との接点強化を目的とした J A 運動を支える

リーダー育成とは

～ J A 静岡市組合員大学（組合員講座）の挑戦～

優良賞

賞状と賞金 3 万円

- 千葉県JAいちかわ 今野 博之氏
すべての組合員とともに
～組合員とJAの未来をデザインする～
- 神奈川県JAセレサ川崎 倉島 信介氏
組合員の課題解決・願い実現スキームとしての協同組合
～事業は組織を救う～

全体講評

審査委員 明治大学政治経済学部教授 大高研道

J A 全国大会開催の年度 (3年に一度) に実施している家の光文化賞農協懇話会「懸賞論文」も8回目を迎えた。今回の募集テーマは「組合員との接点を強化する教育文化活動～食と農を基軸として、人づくり、仲間づくり、地域づくり～」であった。

これまでの懸賞論文全8回の募集テーマはそれぞれ異なるが、J A が輝き続ける組織であるために何が必要か、何ができるか、そしてその魅力を伝えるための教育文化活動が全国各地でどのように展開しているのかを共有し学び合うことにその目的があるように思う。

応募論文は11編で、最終的に3編の優秀賞、2編の優良賞を選定した。欲を言えば、もう少し多くの応募を期待したい。「人づくり」は、組織の基盤づくりだけでなく、協同のあるまちづくりを目指す協同組合運動の要に位置する重要な営みである。多忙な日常業務の中で論文を執筆することは大変なことだとは思いますが、激動する社会や農業情勢に鑑み、現場の協同体験に即して自分たちなりのJ A の存在意義を表現し語る言葉を獲得することは、むしろ求められているのではないだろうか。

とはいえ今回も、理念に立ち返りつつ、変化する社会のなかで直面する課題へのまなざしを持ちながら、それでも組合員との接点の再構築に向けて悩み奮闘している現場の姿と新たな挑戦にむけた意欲的な論文の応募があった。残念ながら最優秀賞は該当なしとなったが、次回に向けて再挑戦および多くの役職員の応募に期待したい。



明治大学教授・大高研道 (中央)
東京農業大学教授・高梨子文恵 (右)
家の光協会代表理事専務・木下春雄
による審査委員会 (敬称略)